

AG PRESS

大学だより

vol.233

2026
JUN.

6



[特集]

ここからつながる仲間たち

アイガクOBOG会

新年度挨拶 / AG NEWS FILE

シューカツの現場から「就活のスタートダッシュ 夏季インターンシップのすすめ」

location: 野球場(日進キャンパス)

スポーツ施設も充実している愛知学院大学。日進キャンパス野球場は硬式野球部の練習拠点としてはもちろん、公式戦の会場としても活用され、白球を追う選手たちの声が響いています。



150th
ANNIVERSARY

2026年、愛知学院は創立150年を迎えました。



卷頭言

新年度挨拶



いのち輝く日々へ

愛知学院大学 学長
愛知学院大学短期大学部 学長

木村 文輝

新たな大学を創り出す
一翼を担ってほしい

新年度が始まり二ヶ月余り。皆さんも、新しい環境になじんできた頃ではないでしょうか。

仏教の故郷のインドでは、今の時期から雨期が始まります。乾燥した大地に豊かな水が浸潤することで、植物が一斉に芽を吹き、動物たちも活動し始めます。人々は、雨期をいのちの輝く季節として、心待ちにしているのです。

この「いのち」という言葉を、「生命」とか「命」と記すことがあります。その場合、生物の生命活動が表されているように私は感じます。それに対して、「いのち」と記した場合には、よりふくよかな、例えばそのものが果たしている役

割や、周りとかかわり、心の揺らめきなども含めた、そのものありようのすべてが表現されているように思われます。そうした「いのち」の働きを、わが国では古来、動物や植物のみならず、山や川、石ころにまで認めてきました。「海は生きている」とか、「大地は生きている」という表現は、まさにそのような捉え方を表現した言葉です。

この考え方にもとづいて、本学がその教えを受け継いでいる道元禪師は、「あらゆるものは生きています。あらゆるものは仏である」ということを説かれました。ここでいう「仏」とは、自らが為すべき事柄に集中する姿を表しています。それも、「これを行なえば、何かいいことがあるかもしれない」というような雑念から離れて、ただ、その事柄に集中するという姿です。山は山として鎮座し、花は花として咲き誇る。それと同じように、私たちも学ぶときは学び、遊ぶときは遊ぶ。働くときは働き、休むときは休む。その「瞬間」に集中することが、「いのち」を輝かせる極意であり、学生生活をワクワクさせる王道だということなのです。そして、そのためには、自らがいま、何を為すべきかを学びながら行動し、周囲からの支えをありがたく受け取りながら、自らも周囲のために行動する。これが、「行学一体」「報恩感謝」という建学の精神です。

学校法人愛知学院は、今年、創立二五〇周年を迎えています。記念式典をはじめとして、多様な行事や企画が行われる予定です。皆さんも、この絶好の機会に積極的、主体的に関わりながら、新しい愛知学院大学を創り出す一翼を担っていただきたいと思えます。その中で、「輝く」「いのち」に出会うことを、心から期待しています。



『日々是好日』

学校法人愛知学院 理事長
龍谷 顯孝

新入生の皆様おめでとうございます。本年愛知学院は創立百五十周年を迎えます。

例年通りに桜花満開の中、入学式を終え清々しい毎日をお過しの事と思いますが、世界に目を転ずれば、ウクライナやガザに加えてイランでも戦争が始まり、激動の様相を示しています。

本年六月二十八日に百周年記念講堂で開催予定の創立百五十周年記念シンポジウムに池上彰先生と共に来校して頂く斎藤幸平先生の最新刊『人新世の「黙示録」』を拜読致しました。

丁度二十年前に太閤二丁目の交差点にあった映画館で見たアメリカのアル・ゴア元副大統領の作った『不都合な真実』の将来予測を思い出しました。

気候崩壊とテクノ資本主義の行き着く先は、益々見通しが暗くなっています。

ただ、仏教の立場では「日々是好日」と、どの様な社会となっても一歩



歩進んでゆくしかありません。

スウェーデンの活動家グレタ・トゥーンベリさんやSDGsの活動は、ひよわく感じるかも知れませんが、一人一人ができることをすることが大事です。曹洞宗では、横浜国大の(故)宮脇昭先生御指導の下に、二十五年前に「千年の森」プロジェクトが行われました。学院の十月に行われる百五十周年記念式典後に予定している「植樹祭」もこの意図を継承しています。

千年の森(鎮守の森)を各地に再生する第一歩として、単なる環境保全とか、災害防止が目的の緑化ではなく『魂の宿る森』としてアグ丸(学院キャラクターの木葉木菟)が住み、五十年後、百年後を見守る森として育ていきたいと思っています。

令和8年度、愛知学院大学後援会会長を務めます村手誠です。このような大役を仰せつかり、身の引き締まる思いです。

本学は本年度、創立150周年という大きな節目を迎えました。これまでの歴史と伝統は、多くの先人の努力と学生、教職員、地域の皆様の支えにより築かれてきたものであり、深い敬意と感謝を抱いております。

大学では、「知の共創、地域との共生」の理念のもと、次代に向けた取り組みが進められています。後援会もこの節目の年にあたり、大学と共に未来を見据えた歩みを進めてまいります。

後援会は、学生が安心して学び、充実した大学生活を送るための支援と、保護者と大学をつなぐ役割を担っています。多様化する社会の中で、学生一人ひとりの成長に寄り添う姿勢が、より重要になっております。

大学生活はかけがえのない時間です。その日々が実りあるものとなるよう支えてまいります。150年の歴史



150年の歴史を 未来へつなぐ後援会として

愛知学院大学後援会 会長
村手 誠

の先にある未来に向け学生の成長が大学の発展につながることを願い、教職員の皆様と連携しながら努めてまいります。1年間、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

令和8年度 大学後援会本部役員(敬称略)	会長	村手 誠
	副会長	両角 一彦
		佐藤 由宜
		加藤 貴恭
	支部活動部長	陣矢 幸司
	総務部長	三輪 彦詞
	厚生部長	藏座 卓也
	施設部長	近藤 俊正
	教育部長	久野 祥毅
	課外活動部長	柴田 軒吾
	会計	前田 晃範
	会計監査	山原 億光
		加藤 偉人
		宮地 芳弘
		長芝 研司
		竹内 宗
		太田 誠一
		浅田 浩司
		出口 知矢

*Aichigakuin
150th
Special*

アイガク OB OG 会

ここから つながる 仲間たち

運動部・文化部ともに多彩なクラブ・サークルで学生たちが活躍する、愛知学院大学。卒業後も有志が交流を続けるOBOG会の活動も盛んです。学生時代、部活動を通して学んだこと、同じ目的に向かって切磋琢磨した経験を社会で生かしながら、再び仲間と集まることの魅力とは？演奏会に向けた練習に密着取材し、ひもときます。



愛知学院大学マンドリンクラブOBOG会

ゆるく、長く、楽しく！ 音楽でつながり続けて64年

1962年創部の歴史あるクラブ。全国の大学でマンドリンクラブが盛んだった1970年代には100名ほどの部員が活躍し、演奏会も頻繁に開催していました。残念ながら廃部しましたが、OBOGたちは今も音楽を通してつながり続けています。

DATA

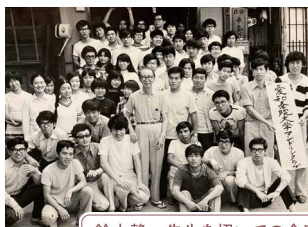
クラブ創部：1962年
OBOG会メンバー：約40名
幅広い世代の卒業生が
集まり活動中



History

歯学部学生を中心に創部。マンドリン界の巨匠で作曲家の鈴木静一氏を顧問に招聘して演奏技術を磨き、定期演奏会を開催するなど、学生たちが自ら部を育ててきた。2012年、創部50周年記念を機にOBOG会を組織化。

第10回定期演奏会(1973年)



鈴木静一先生を招いての合宿(1972年頃)

創部50周年記念パーティー(2012年)



森谷 一さん
歯学部 1980年卒
第11代リーダー

中村 慎哉さん
法学部 1981年卒
第18代リーダー

土屋 亘平さん
法学部 2019年卒
第56代リーダー



TALK SESSION

同じ大学、同じ部活。

それだけで世代を超えて付き合える。

愛知学院150周年の記念コンサートに向けて、再び集結したOBOG会。初回の練習は、名城公園キャンパスでおこなわれました。当日参加したメンバーのうち世代を超えた3人の方に、現役時代の思い出や部活動・OBOG会への思いを語っていただきました。

歴史ある部活動、それぞれの思い出

〈森谷〉マンドリンクラブは、歯学部のメンバーが中心になって立ち上げた団体です。私の頃は、楠元キャンパスのプレハブの2階で練習していました。階段を歩くとガンガンと音が鳴って振動するような環境でしたが、よく響くから演奏していて気持ちよかったですよ。

〈中村〉私の頃は、楠元の古い講堂で練習させてもらっていました。木造で音が吸い込まれるので、練習環境としては逆に良かったかもしれません。しっかり音を出せる訓練ができましたから。

〈土屋〉僕たちは日進キャンパスで練習していました。僕たちが先輩たちの手書きのメモが刻まれた楽譜なども残されていて、脈々と受け継がれてきた伝統の重みを感じました。カセットテープに録音された先輩たちの演奏をみんなで聴いたりしましたよ。

〈森谷〉クラブの転機は、作曲家の鈴木静一先生を顧問に迎えたことでしょうか。1970年代、当時の指揮者が先生のもとへ直々にお願ひに上がったそうです。先生の指導を受けるようになってから活動の幅も広がりました。愛知県文化講堂(当時)での年一回の定期演奏会に加え、1973年頃からは夏にサマーコンサートも開催するようになりました。客席は、ほぼ満席でしたよ。マンドリン音楽が高い人気を博していた時代でしたから。〈中村〉鈴木先生の楽曲は物語性が強く、情景が目に見え



長く受け継がれてきた愛学らしさは、音色やメンバーの手柄に表れています。

かぶような「魔力」がありますよね。旅をしたスペインの風景を描いた曲などに学生たちは皆、陶醉し、夢中で演奏しました。私はコンサートマスターを務めました。私が合宿に来られたときの緊張感は今でも忘れられません。

創部50周年を機に結ばれた絆

〈中村〉卒業生が増えるにつれ各世代でのつながりはありましたが、OBOG会を本格的に組織化したのは、2014年の創部50周年がきっかけでした。世代を超えてつながり、記念演奏会をやるうと。当時の現役生にも協力してもらって日進キャンパスに集まって練習しましたね。

〈森谷〉久々に大学に行ったら、専用の部室があつて、学生たちの演奏のレベルも高く、感心しました。演奏会本番では卒業生と現役生と一緒にステージに立ち、縦と横の絆を再確認できました。



愛知学院150周年記念コンサートに向けて練習中。皆さん真剣そのもの。

150周年を祝う「愛知学院の音」

〈中村〉次は、愛知学院創立150周年の記念コンサートに向けて頑張ろうと。今日の練習は、いかがでしたか？

〈森谷〉最初の音が鳴った瞬間に「ああ、愛知学院のマンドリンクラブの音だ」と感じました。世代を超えて、弾き方や合わせ方が自然と受け継がれているんだと、驚きましたよ。久しぶりに若い世代と一緒に演奏できて、非常に楽しかったです。

〈土屋〉今日、先輩たちとお会いしてうらやましく感じました。30年後も、皆さんのように仲間と楽器を楽しんでいたいと思います。僕にとってOBOG会は、一度音楽から離れてしまった自分を再び引き戻してくれた大切な場所です。

〈中村〉クラブ活動で培った人間関係は、社会に出てからの大きな財産となりました。後輩の皆さんも、授業以外の場所での人間関係を大切にしてほしいと願っています。

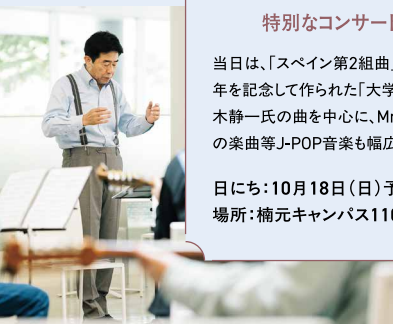
〈森谷〉秋の演奏会では、聴いてくださる皆さんと共に祝いの場を盛り上げたいですね。マンドリンの魅力が存分に伝わるよう、全力で取り組みましょう。

NEWS

愛知学院150周年記念イベントとして特別なコンサートを開催!

当日は、「スペイン第2組曲」、愛知学院100周年を記念して作られた「大学祝典序曲」など鈴木静一氏の曲を中心に、Mrs.GREEN APPLEの楽曲等J-POP音楽も幅広く演奏します。

日にち:10月18日(日)予定
場所:楠元キャンパス110周年記念講堂



「私たちが頑張っています!」

在学中、真剣に取り組んだ部活動。その経験を通して得たものは、活動時期は違っても共通の大切な財産になるはず。卒業後も仲間と集まれる場所を持ち、いきいきと人生を楽しんでいる人たちがたくさんいます。

日本拳法部OBOG会

20代~80代まで幅広い年代が在籍。合同練習や大会の応援など現役学生とも交流し、互いに刺激を受けながら技術向上に努めている。OBOGチームで団体戦に出場する機会も。有志が集まりイベントを楽しむなど、競技以外の交流も深めている。

OBOG会では自分のペースで日本拳法そのものを純粋に楽しめます。世代を超えて同じ競技でつながり続けられることは財産。卒業後、競技から遠ざかった人も、ふと思い出したら気軽に練習やイベントに顔を出してください。

中橋 央至さん 法学部 2016年卒
日本拳法部 現監督



TOPICS

02



愛知学院大学と三菱UFJ銀行との
産学連携協定 締結式

三菱UFJ銀行と産学連携協定を締結

2月24日(火)、三菱UFJ銀行と本学との間で「産学連携協定」の調印式が、日進キャンパスにおいて執りおこなわれました。本協定は、双方の人的・知的資源を融合し、教育・研究活動のさらなる充実、人材育成および地域社会の発展に寄与することを目的とするものです。調印式では、学生への金融教育の重要性や、本学教員の研究成果と産業界との接続強化など、幅広い連携の可能性について、両者の代表より期待が示されました。本学は、三菱UFJ銀行との連携を通じて、教育・研究の一層の発展と地域社会への貢献という使命を果たしていきます。

TOPICS

01



令和8年度入学式を挙行了しました

4月1日(水)、千本もの満開の桜が咲き誇る中、令和8年度入学式が愛知学院大学日進キャンパス100周年記念講堂にて、盛大に挙行されました。式典は、午前・午後の二部制。午後からは雨模様となりましたが、期待に満ちあふれた学部生2,932名(短大含む)・大学院生44名(歯学部と薬学部を除く)の新入生を新たに迎え入れられました。また保護者の方々も、広い講堂だけでなくサテライト会場にも大勢来場。見守られる新入生たちは、真新しいスーツに身を包み緊張した様子ながら、これからの大学生活への期待をにじませ、真剣に式辞や祝辞の言葉に耳を傾けていました。これからのキャンパスライフでの飛躍と活躍が期待されます。

150th NEWS FILE

記念事業やイベントなどさまざまな取り組みが活発におこなわれ、愛知学院創立150周年式典に向けた気運を盛り上げています。



NEWS

日進キャンパス図書館情報センターの一部を「みんなの図書館」にリニューアル

3月、日進キャンパス図書館情報センター1Fの一部を地域に開放できるよう、リニューアル。大学図書館は一般の方々にとって利用しづらい場所でしたが、今回の取り組みにより、小さなお子さまから高齢者の方まで集えるようになりました。新たにソファやチェアを配置し、ゆったり過ごせる空間づくりを意識。学生たちにとっても、「Relax」「Refresh」「Recharge」できる、新たな居場所になるはず。また、畳敷きのキッズスペースにベビールーム(授乳室)やおむつ交換台なども設けているため、小さなお子さま連れの方も安心してご利用いただけます。ひとりの時間、ふたりの時間、そしてみんなと共有する時間を新しい図書館情報センターで過ごしてもらえよう、皆様のご来館をお待ちしています。



※図書館に関する情報は、愛知学院大学図書館情報センターのホームページからご確認ください。

NEWS

150周年記念サイトにて Special Interview 「わたしの“ZEN力”」を公開

愛知学院創立150周年を記念して、卒業生による挑戦の軌跡と、在学生・在校生一人ひとりの「ZEN力」を紹介するインタビュー記事を公開しました。第一弾では、地域・社会の第一線で活躍されている卒業生おふたりからのメッセージと、愛知中学・愛知高校・愛知学院大学・短期大学部から8名の「ZEN力」を紹介しています。自身と地域・社会の未来を切りひらく挑戦者たちの声をご覧ください。



◀インタビュー記事はこちらからご覧いただけます

PICK UP

国際ボランティア部が加盟する団体が 文部科学大臣賞受賞(令和6年度) —カンボジアでの教育支援を通じた実践的ボランティア—

愛知学院大学では、学生が主体となり、国際社会の課題に向き合うボランティア活動が活発におこなわれています。その代表的な取り組みのひとつが、発展途上国における教育支援を目的とした国際ボランティア部(日進キャンパス・名城公園キャンパス)の活動です。6都府県9大学(2024年5月時点)の教員・学生で組織されたボランティア団体SPLEAに所属し、募金活動、寄付されたリユース品の収集などを通じ、カンボジアの子どもたちの支援につなげています。長年の取り組みが評価され、SPLEAとして令和6年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰(文部科学大臣賞)を受けました。学生たちの挑戦は、国境を越えて人と人をつなぎ、未来への新たな可能性を切り拓いています。愛知学院大学は今後も、こうした実践的な国際ボランティアの機会を支援し、グローバル社会に貢献できる人材の育成を推進していきます。



文部科学大臣賞「個人・グループ・学校」分野

【受賞者名】 SPLEA ICVs 【取組の実践場所】 愛知・京都・福岡・沖縄・大阪・東京

【受賞テーマ】 すべての子どもに行き届いた教育を ～家に眠るリユース品をカンボジアの子どもたちへ～

※ICVs:国際協力教育学生ボランティアズ
 本学の小寺七聖さん(当時文学部2年)と
 岩屋亮介さん(当時法学部2年)が、
 学生総務会の副団長を務めました。

後援会レポート AGU REPORT

① 2026年度大学後援会総会を開催

5月24日(日)に大学後援会の総会が名城公園キャンパスにておこなわれました。総会では2025年度事業報告・決算報告に続き、2026年度新本部役員人事、事業計画案・予算案などが審議され、すべての議案が承認されました。総会后、学部別懇談会が開かれ166組207名の保護者の方にご参加いただきました。学部別懇談会では、学部長が各学部の特色や教育について説明し、参加者と懇談しました。また、9月～10月に開催する保護者懇談会にもぜひ参加ください。



② 保護者懇談会のお知らせ

昨年度に引き続き、今年度も本学3キャンパスと地方11会場にて保護者懇談会を開催します。全体会では、授業・成績・学生生活・就職活動について、それぞれの担当職員が説明。その後、本学会場では個別相談会、地方会場では懇談会を実施予定です。ぜひご参加ください。



※参加人数によりプログラムは変更になる場合があります。

【開催スケジュール】(8月上旬に案内送付予定)

- 9.27(日) 日進キャンパス
- 10.4(日) 名城公園キャンパス
- 10.10(土) 東京・石川
- 10.11(日) 富山・福井・福岡
- 10.17(土) 岡山・長野
- 10.18(日) 大阪・香川・鹿児島・沖縄
- 10.25(日) 楠元キャンパス(歯学部・薬学部・短大)

／ 知っておきたい! イマドキの就職活動 ／



シューカツの現場から

VOL.33

MESSAGE FROM CAREER CENTER



今回のお題

就活のスタートダッシュ 夏季インターンシップのすすめ

企業で一定期間の就業体験などにチャレンジし、仕事の内容や働き方の理解につなげるインターンシップ。本選考への足がかりになるケースも多く、今の就職活動において非常に重要な機会です。種類・内容・参加メリットなど、最新のインターンシップ事情を把握して、良い就活スタートを切りましょう。

今どきのインターンシップとは?

- **大学3年の夏のインターンシップ**が就活の実質的なスタート
- **インターンシップ参加者に対し、早期選考の案内を出す**企業が増えている



インターンシップに参加したかどうかで
**その後の就活の進み具合に
差が出る可能性も!**

押さえておきたい!

今どきインターンシップの基礎知識

インターンシップは、就業体験を含む5日間以上のもので定義されています。
ただし、企業やナビサイトによって呼称や内容はさまざまなので、必ず確認するようしましょう。

Ex.インターンシップ&キャリア(ナビサイト)/オープンカンパニー(就業体験なし)
/1Day、2Days/業界研究

1 期間・内容・形式をよく調べて選択

- 内容**
- 数時間～半日の場合 → **企業研究を深める機会**
・会社説明会 ・社員との座談会 など
 - 数日の場合 → **仕事の詳細や職場環境を見極める機会**
・営業体験・実務体験(ex. IT企業でプログラミング体験)
・自己分析講座 など

形式

	メリット	デメリット
対面	会社の雰囲気や働いている人の雰囲気が見られる	移動に時間とお金がかかる
オンライン	移動時間がなく、多くの企業のインターンに参加可能	会社の雰囲気がわからない 社員と直接話ができない

対象 主に大学3年生向けのプログラムが中心ですが、半日～1day形式の「オープンカンパニー」は低学年も参加しやすいため、挑戦してみてください。

2 目的を明確にして参加する

業界や仕事を理解する

さまざまな業界や具体的な業務内容を知ることで、将来の選択肢を広げ、自分に合った進路を考えるきっかけになります。

ミスマッチを防ぐ

自分の得意なこと、希望する働き方などを自身で整理して再確認することで、企業とのミスマッチを防ぐことができます。

早期選考のチャンスにする

インターンシップに参加した学生だけに早期選考の案内が届くなど、チャンスが広がる可能性があります。

【インターンシップに参加した先輩の声】

インターンシップ事前説明会での印象と、実際の現場にギャップがあることに気づけた



他大学の学生の姿に刺激を受け、就活の意欲が高まった



営業は自分には無理だと思っていたが、実際に職場を見てできそうだった



3 「インターンシップ保険」に加入

安心して参加できる環境を整えることも重要です。本学では、インターンシップ中の事故やトラブルに備え、「学生教育研究災害傷害保険」「賠償責任保険」に全員加入しています。

※必要な場合は、事前にキャリアセンターへ申し出が必要

要注意! “アルバイト”のようなインターンシップ

社員同様の業務を経験できる貴重な機会ですが、アルバイトに近いものもあるので注意が必要です。

- 業務が単純作業中心(データ入力や仕分け作業)
- 教育やフィードバックがほとんどない
- シフトが固定で「労働力」として扱われる(繁忙期のホテルの宴会係など)

Point! 「学びがあるか」を見極める

実務体験のほか、ワークショップ、プロジェクト課題などに取り組むことで、営業力やマーケティング力、企画力など、社会で役立つビジネススキルを養うこともできます。自分の成長につながるのか、研修内容をよく確かめて、参加するプログラムを選びましょう。